

第40回 オジロワシ・オオワシ渡来状況調査結果

日本野鳥の会福井県 調査担当 堀田 雅貴

- 1 目的 三方五湖に飛来するオジロワシ・オオワシの個体数と渡来期の生態の把握
- 2 調査日時 2024年2月4日(日) 8:00~13:00
- 3 天候 天気:雨のち晴 積雪:約0cm 気温:4~10℃ 風:NW1~3
- 4 調査方法 菅湖・三方湖・水月湖の湖岸5定点と移動観察1地点で、無線連絡による追跡観察
- 5 調査者(括弧内は観察会兼任)
松村俊幸・柳町邦光・鈴川文夫・宇野竜司・村上公輝・村上千夏子・井尻雅己・田川享・堀田統大
大槻航・堀田雅貴(小嶋明男・平城常雄・武田真澄美)

6 調査結果

- (1) 確認できた対象種と個体数
 - ・オジロワシ1個体
- (2) 確認できた対象種の特徴と個体情報
 - ・オジロワシ雌雄不明成鳥
頭頸部は淡褐色、嘴は黄色、尾羽は白色
右P5内弁損傷、左P8折れ、左S1付近折れ
- (3) 主な行動と行動範囲
 - ・菅湖を中心に行動し一時的に水月湖方面で滞在するが、最終的に菅湖へ移動し終了



2024.2.4 撮影:堀田雅貴

7 行動記録

- | | |
|-------|-------------------------------|
| 08:35 | 長尾島(70.7m 三角点北)の落葉広葉樹に止まりを確認 |
| 10:14 | 南へ飛翔 |
| 10:15 | 長尾島(70.7m 三角点南)のスキ頂に止まり |
| 11:15 | 南へ飛翔したのち、西へ移動(水月湖)し南東へ移動(菅湖) |
| 11:19 | 堀切(菅湖と三方湖をつなぐ水路)東北東の落葉広葉樹に止まり |
| 12:19 | 北西へ飛翔し水月湖側へ回り込む |
| 12:20 | 長尾島(70.7m 三角点北)に止まり |
| 12:47 | 南へ飛翔したのち、南東へ移動(菅湖) |
| 12:50 | 堀切(菅湖と三方湖をつなぐ水路)東北東の枯れ木に止まり |
| 13:00 | 調査終了 |

8 今回の調査で観察された鳥類 52種

コハクチョウ・トモエガモ・ハンビロガモ・ヨシガモ・ヒドリガモ・カルガモ・マガモ・オナガガモ・コガモ・ホシハジロ・メジロガモ・キンクロハジロ・スズガモ・ホオジロガモ・ミコアイサ・カワアイサ・キジバト・オオバン・カイツブリ・カンムリカイツブリ・ミミカイツブリ・ハジロカイツブリ・カモメ・セグロカモメ・カワウ・ダイサギ・ミサゴ・ハイタカ・トビ・オジロワシ・ノスリ・カワセミ・コゲラ・モズ・カケス・ハシボソガラス・ハシブトガラス・ヤマガラ・シジュウカラ・ヒヨドリ・ウグイス・エナガ・メジロ・ツグミ・ジョウビタキ・セグロセキレイ・ビンズイ・ベニマンコ・カワラヒワ・ホオジロ・カシラダカ・アオジ

9 三方五湖におけるオオワシ及びオジロワシ渡来個体数の動向と今冬の状況

当地におけるオオワシ及びオジロワシの渡来個体数は2007年度以前までオオワシ1個体・オジロワシ2個体が通常であったが、2008年度以降は安定していない。

オオワシにおいては15年以上確認例がなく、オジロワシは概ね1~2個体となっている。

今回の調査結果から、今冬はオジロワシ成鳥1個体が渡来していることが明らかとなった。

昨年度までの確認例(止まり)の多くは、三方湖畔の伊良積集落西方であったが、今年度は主に菅湖周辺及び長尾島であった。なお、本調査においても調査時間中のほとんどは菅湖で確認された。

10 最近の三方五湖におけるオジロワシの渡来個体数

観察期間	性・齢状況	初認～終認
2008.11～2009.2	第5回冬若鳥1 別の1個体は齢不明	2008.12.7～2009.1.31
2009.11～2010.2	成鳥1	2009.11.28～2010.1.17
2010.11～2011.2	成鳥1(雌) 第3回冬若鳥1(雄)	2010.12.19～2011.2.20
2011.11～2012.2	第2(3)回冬若鳥1 第4回冬若鳥1	※2012.2.5～2012.2.20 (2週間のみ立寄り)
2012.11～2013.2	越冬確認なし ※渡りの途中に立寄ったと思われる成鳥1	2013.3.3～2013.3.5(3日間)
2013.11～2014.2	成鳥2(雄・雌)	2014.1.18～2014.2.22
2014.11～2015.2	成鳥2(雄・雌)	2014.12.28～2015.2.24
2015.11～2016.2	成鳥2(雄・雌)	2015.12.30～2016.2.28
2016.11～2017.2	成鳥1(雌) 第2~3回冬若鳥1(雄)	2016.12.18～2017.2.28
2017.11～2018.2	成鳥1(雌) (若鳥・雄1)	2017.12.04～2018.2.22 (若・雄 2017.12.14～15)
2018.11～2019.2	成鳥1(雌)	2018.12.14～2019.2.18
2019.11～2020.2	成鳥1(雌)	2019.12.6～2020.2.21
2020.11～2021.2	成鳥1(雌)	2020.12.17～2021.2.16
2021.11～2022.2	成鳥1(雌)	2022.01.06～2022/02/16
2022.11～2023.2	成鳥1(雌) 成鳥1(性不明) 幼鳥1	(雌) 2022.12.18～2023.2.6 (性不明) 2023.2.5～2023.2.9 (幼) 2023.2.6～2023.2.28
2023.12～2024.2	成鳥1(性不明)	2023.12.21～2024.2.11

11 まとめ

三方五湖がオオワシ及びオジロワシの渡来地として機能しているのは豊富な餌資源にあると考えられる。しかし、三方五湖におけるオジロワシの渡来個体数の増減は餌資源と相関関係にあるかどうか不明なうえ、北海道以北の繁殖状況や北陸以北の積雪状況に起因している可能性も否定できない。

なお、オジロワシの渡来個体数が極端に少ないことから、増減が起きた際の決定要因は不透明となる可能性が高い。

したがって、決定要因をあらかじめ推測し、他のデータを蓄積しておくことで考察の次元を高められることに期待したい。例として”食性が類似したミサゴの個体数変動”や”狩場である湖面と湖水の変容”などがあげられる。

自然は様々な要因が複雑に絡み合いバランスを保持しながら形成されている。三方五湖もその一つである。「食物連鎖の頂点であるオジロワシの渡来地」という事実が三方五湖の豊かな自然を証明している。

このような自然環境を永続的に保全していくことが求められる。